

令和6年度 まちづくりを語る会 概要

(●意見・質問等 ○町側の回答等)

7月9日(火)

【意見・質問等】

- 今回のテーマは「持続可能な地域コミュニティ」とあるように、これまでとは違うという印象を受けた。これまでの語る会では要望合戦のようになってしまっていて問題解決のやり方についての話となつてこなかったように思う。
- 区長として地区の運営に携わっているが、コロナ禍で事業が中止となつてしまったことからこれまで慣習的に行ってきた事業の見直しを行った。令和4年度に事業の見直し検討委員会を立ち上げて、事業を続けていくには何を伝えるのか、地区の伝統として何を残すのかといったことを整理した。社会的に定年が65才になっている中で地域の担い手が不足しており、若い人がどのように参加できるのかを検討している。
- 自治体が行う役割としては自主防災活動と空き家対策、冬の除雪という3つの活動に集約されるのではないかと考えている。
- 区長へ配布された地域支援アドバイザー派遣事業のチラシにあるような専門家の方々から我々が目指すべき一つの地域の在り方とかデザインを勉強するのも一つの方法ではないかと思っている。
- 一昨年隣の東根市からこの河北町に引っ越しをしてきた。河北町に家を買って4人家族で越えてきて、子供は小学生1年生と幼稚園に入っている。実際、すごく住みやすく良い町だと感じているし、家も買って一生ここで暮らしていこうと思っている。
- 夫婦共働きのため中部小の隣のちびっ子学童クラブに小学生の子供を預けているが、次男の幼稚園児が小学校に上がる時には、長男とは別々の場所に預けることになる聞いた。人数の関係上どうしても仕方がないという話であり、親としても仕方がないと思う反面、お兄ちゃんやその友達からいろいろなことを学ぶということがすごくいいかなというふうに思っていた。将来的に2・3年後にはより子供たちにとって住みやすい環境になってほしい。
- 区長をしているが、世帯数はそれほど大きくはなく、小学生はたった一人という状況と高齢化が進んでいる。地区の活動に積極的でない方が多いこともあり、簡素化すべきところは簡素化していかなければならないのかなと感じている。
- 町への要望は特にはないが、冬の雪については気になっており、昨シーズンくらい少ないと住みやすいなと感じている。消雪道路にはなっているが、前区長からは消雪にかかるお金がないと聞いており、もしも壊れてしまえば除雪にしないといけなかつとも考えている。
- 町のスポーツ交流大会に出ること自体にプレッシャーを感じているという話は聞いたことがある。
- これまでまちづくりを語る会に3年間出ているが、今回のテーマはこれまでと違うなと感じて参加した。ほかの地区の方はどんなことを考えているのかを聞きたいことからこれまでも参加させてもらっている。

- 前区長さんがとても一生懸命な方でいろんなことをやってくれていてその流れがこれまでも続いてきた。スポーツ交流大会も区長さんが人集めに苦労しているのを見て、区で振り分けてみんなで出ようという流れになり、出ているうちに楽しかった時期もあったが、やはり参加者が少なくなってきた年配の方に固定化してきていると感じている。
- 一生懸命で地区を引っ張ってくれる区長さんからの話を聞いたので、うちの地区もなんとか頑張っってそのようになればと感じた。
- うちの町内会は町内会と公民館の会計が別々になっており、農業関係の事業や交付金事業を振り分けてはいるが、表裏一体の活動として実施している。かつて私が教育委員会に会計と一緒にしたときに交付金をもらえるのかと聞いてもはっきりとした答えがなかったこともあり、公民館自体の決算をしっかりと分けないといけないと思っている。
- おまつりの影響もあるのか先輩役員が次の役員を推薦する流れがあり、ある程度の年齢になったら自分が役員をしなければならないと思っている若い年齢層の地区民もいる。
- 古い町内会ということもあり、自分たちの地区の側溝を自分たちできれいにするとカーブミラーをきれいにするなど、自分たちのことは自分たちでやる意識が根付いている。そうした活動はやる人がやるもので、出れなかった世帯が何かペナルティを受けるということはない。
- 隣の地区にはアパートがあるが町内会には入っていないという話を聞いている。自分が民生委員としての担当区域にはなっているため、コミュニティとしては心配だと感じている。今日も降り続けている雨で避難勧告が出る可能性もあるため、高齢者宅に薬や毛布を備えておくようにという話をしてきた。
- 1年ほど前に他の自治体で道路の端に苔とカビが生えており、歩行者が転倒して骨折してしまい、裁判を起こされて、市が賠償金を支払うようにという判決がでたという話を聞いた。そんなところまで市が管理できるわけがないため歩行者が気を付けて歩くべきとは思いますが、自分も町を歩いていて危ないなというところがある。SNSがよく使われている社会でもあるので、役場にいちいち行って報告するというだけでなく、安心・安全にかかわるようなところをLINEで報告を受ける窓口を作ってはどうかと思う。ブロック塀や街路樹など身の回りで危険なところを区長を通して報告するという形ではなかなか報告しづらい面もあるためもっと報告しやすい方法としてLINEが有効ではないかと思う。
- 当地区は今年の3月で中学生がいなくなって子供がいなくなり高齢化が進んでいる地区である。ゴミ当番があり、ごみ集積所に防鳥シートをかける仕事を1週間ごとに回すというものがある。地区民に高齢者が多くなっていることからシートをかけるのが大変になってきて、小屋を建ててはどうかという話になり、役場へ相談しに行ったがその場所には建てられないということであった。結局、シートを固定して最初にごみを出した人がシートをかけるということにしたが、その際に塀を作ることとなり、地区の若い人たちにも手伝ってもらえた。声がけをすれば地区民も手伝ってくれることを実感した。
- 自分は長年河北町に住みながら何もできていないということを反省しており、何かしなくてはならないと思ってはいるがうまくいっていない。このような形で草の根まで声を聴くような話し合いの活動をされているのはとてもいいことのように感じている。ただ、参加者が少なく、町民として少しさびしさも感じる。

- 町長からの話の中で人口減が進んでいるという話があったが、一方で他市町から移住されている方もいると思う。そういった方々がどの程度いて、どの方面から移り住んできているのか、どうして河北町を選んだのかなど分かればお聞きしたい。また、大学などでいったん町を離れた方が山形市までは戻ってきているが河北まで戻ってきていないという話もあったが、河北まで戻らないのはどういった要因があると分析されているのかお聞きしたい。
- 子ども家庭庁ができたこともあり、幼児期からの切れ目のない見守り体制の構築という流れが来ていると思うが、従来は学童保育一本だったものを文部科学省でやっている放課後子ども教室なら3分の2ほど国から補助がくるはずで専門の指導員がいなくとも実施できる。都市部では長期休業以外の平日4時までの事業として実施しているという話も聞いている。学校の空き教室を利用して地域の方々が安全を確認できれば実施できる事業でもあるので若い子育て世帯にとっては助かるし、学童と違って地域の方々からの教育も含まれるので、預かり時間が7時までになっている学童保育と併用する意義もあると思う。
- 今回のテーマが持続可能な地域コミュニティのあり方となっており、資料の中に住みたいまち、住みたいまちという記載がある。実際にこの町を選んで住むことにした方々が町を選んだ理由がすごく大事なのかなという考えで転入する方の数と理由を質問した。また、戻らない理由も個人的には町の魅力が薄いのではないかと感じており、楽しめる町・楽しい町というフレーズがあれば人は集まるのではないかなと思う。
- 町としてどのようなまちづくりを考えるのかというのがポイントとは思うが、この地域のコミュニティでよかったと感じる人が多くなればだめだと思う。例えばどんがまつりで昔は多くの町内会で屋台を出していたが、今年度はかなり少なくなっており、来年以降はもっと少なくなる可能性がある。当地区ではどんがまつりの当番地区を担うというのは地域にとってとてもいい機会であると思っており、まだ30～40代のまつりを好きな地区民でまだ将来的にも続けさせたいと考えている人たちがいる。町もどんがまつりの意味合いを大事にしていき、地域の人も意識を持って次代につなぐという考えでいないと持続可能ということにならないのではないかなと思う。
- 自分が自治会を引き継ぐときの条件として、女性の役員を一人でもいいから入れてくれないう話をしたが、結果としては誰も入らなかった。組織としても青年会や子供会などがあるものの組織運営がほぼほぼ行われていないのではないかと思っている。小学校が一つになった場合に、自治会活動の中に青年会や子供会が入っていたものをどうやって機能させていくかが課題になっていくと思う。小学校がなくなるのは地域が疲弊していくことにつながると思っているのでその対策を真剣にする必要があると思う。また、地域活動の中で女性や若い人の意見を取り入れる機会というのもなくなっていることもあり、今の自治会の組織でいいのかということも考えている。例えばほかの地区と一緒に広域化して行って、その中心的な拠点を西里なら改善センターに置き、役場の関係部署をそこに配置してもらって機能させていくくらいの見通しがないと持続可能なコミュニティなんてできないと思う。地区の中に新しいアパートができて形成された新興住宅地ができた場合に、そこに入ってきて新しく住み始めた人たちの共同体と共存していくためにはどうしたらいいのかという課題も抱えているため、一つのモデルケースを示してほしいと思う。

- 先ほどから話に出てきている子育ての居場所づくりなどの話を聞くと、行政の縦型の組織というのが大変なことがある。例えば、河川愛護デーでも古佐川の河川愛護協会という組織があり、町から助成金をもらっているが助成金を各地区に配布しているだけになってしまっている。地元の団体であれば、河川愛護デーだけでなく草刈りをしやすいように県に流木や大きな枝葉や流木を除いてほしいと要望活動なんかをするべきではないかと思う。町が所管して事務局を持っている連合会などの事業・組織の在り方を検討すべきかと思う。

【町側の回答等】

【学童保育について】

- 学童保育について、以前は低学年まで学童に預けるが中高学年になると預けないということが多かったが、今は高学年になっても登録してお世話になりたいという方が増えており、子供の数は減っているものの学童希望者は増えているという状況。兄弟で同じ学童に通えないという負担感を何とかしなければならないという思いはあるが、令和7年が学童のピークになる年で今も増え続けている状況である。それ以降はだんだん数が減っていくという中ではあるが、先送りにはできないということから昨年1年、みんなで考えて、今年から小学校も活用した取り組みをした経過がある。
- 数年前から学童の保護者と先生方と町長と私とで話し合う機会を設けている。町内に4つの学童があるが、北谷地小、西部小、中部小学区のお子さんも西里の学童にお世話になっており、西里の学童がパンクしそうな状況である。こうした状況を解消するため、本来の学童の場所は体育館裏の1か所しかないが、中部小学校の体育館近くの食堂の一部を借りて学童にあてるということにしている。中部小の保護者からは中部と西里の2か所に迎えに行くのは大変という声を聴いており、状況を解消したいと考えている。
- 学童で子供を預かるにも施設のキャパがあり、今後は子供の数が減っていくという中でもあるので、小学校を有効活用しようという考えでいる。学校教育と学童は別ではあるが、教育委員会に学童・学校の活用も視野に入れた形で一元化しようという取り組みを行ってきた。中部小での学童の問題が完全に解消しているものとは認識していないため、今年やってきた結果がどうだったのかという検証や保護者の方の意見を聴く場を設けるなどしていきたい。

【放課後子ども教室について】

- 河北町の場合は放課後子ども教室を北谷地改善センター、西里改善センター、溝延改善センター、谷地中部小学校の4か所で行っている。通年実施できればいいとは思いますが、補助の金額の兼ね合いもあり、どの地区も年8回程度しか実施できない。内容としてはビーズづくりや俳句作り、英会話といったものを行っており、教育の分野ごとに事業を実施し、子供の放課後の居場所づくりとして活用している。

【町管理施設の危険箇所への対応について】

○町道の危険箇所の連絡について、現在は窓口、電話、メールにてやり取りすることとなっており、SNS を活用するという仕組みがない。なるべく簡単にいつでも連絡いただける方法も大事だなと感じたところでもあり、すぐに対応できるものではないが検討させていただきたい。

○この語る会も昨年から Web での事前申し込みもできるようにしたら初めて参加するという若い方もいた。若い方にとっては電話でというより Web での申し込みのほうが敷居が低いということがあるかもしれないので、今後新たな方法を検討していきたい。

【移住施策について】

○わかる範囲での回答にはなるが、一番多い転出元は近隣市で、東根市、天童市、山形市、寒河江市あたりが多い。転入についても傾向は同じで近隣市が多いが、転出のほうが多いため全体的に転出者のほうが多くなっているという状況である。そのほか高校を卒業して進学や就職のため仙台や関東へ転出するという人も多いが、全体的に見れば近隣市間での異動が多い。

○魅力的なまちでなければ戻ってこないし、出て行ってしまうということもあるのでしっかりしたまちづくりをしていかなければならないと思う。高校生医療費無償や学校給食無償化など寒河江の子育て支援がトップを走っていて、河北町もそういった経済的支援の面で並んだと思っている。ただ、高校に通わせるのに駅までの送迎が大変という声を聞くことがあり、寒河江、東根、天童といったところと比べると河北町へ戻ってきて子育てするのに苦労されていると感じている。

○転入される方の理由について、新築住宅取得もしくは中古物件を購入して移住された方向けの補助金の支給者からアンケートを取っている。一番多いのは血縁関係の方が転入してくることが多く、いったん出ていかれて戻ってくる方が多い傾向。

○どんが祭りについて昨年は中当番で、かつては 11 台の囃子屋台が出ていたが、昨年は 4 台のみとなっている。今年は北当番だが、今のところは 6 台の屋台の予定と聞いていて、屋台を出す地区によっては戸数が 30 数軒というところもあれば、100 軒を超えているところもある。屋台を出せなくなる理由は様々だが、一つはマンパワーの不足や子供などの太鼓のたたき手の減少というのが挙げられており、地区に住む人以外からも参加できるようにして囃子屋台を出しているという話も聞いている。ほかにも屋台を出すために地区の方々が金銭的な負担をしているという事情もあると思われる。今後どんが祭り実行委員会としてどうやれば持続していける祭りになるのかという話が第一回の実行委員会でも話題にあがり、ひな祭りも含めて継続的にしていけるようなありかた検討を進めている。

【谷地高議会での意見について】

- 河北町に欲しいものということで提案されたのが、ファミレスと駅であったことがある。これは町内に時間を気兼ねなく過ごせる場所が欲しいという高校生の思いが現れていると受け止めている。また、バスなどで河北町から山形まで通えるような交通体系を作れないかという提言もあった。河北町はどこにでも行きやすいアクセスのいいところでもあるので、行きたいところを直接町内につくるのではなく、行きたいところへつなぐような手だてを考えるのが持続可能なシステムとなると思う。魅力づくりと合わせて周辺の魅力あるところを河北町のものにしてしまうという意識も大事だと思っている。

【地域のコミュニティについて】

- スポーツ交流大会など、本来は楽しんでもらうことが目的なのに参加者が高齢化し固定化してしまっている現状があるのかもしれない。ちなみに自分のいる荒町南ではスポーツ交流大会を若い人に任せた。若い人が参加者を募って参加することで新陳代謝が始まりつつあると感じている。
- 地域の中の婦人会がなくなったり、老人会の運営が大変になっていく中で、先が見えにくく世代交代が起きにくいという状況は皆さんの共通認識で役場の中でも問題意識を持っているため今回のテーマを設定した。地域ごとの課題は違うが、苦労しているところは同じという部分もあるのでそうした切り口での意見もいただけた。組織を維持していくには、組織を維持していくだけのメリットがあるのかどうか、楽しめるかというのがポイントとしてある。地域の担う役割としては自主防災活動と空き家対策、冬の除雪という意見もあり、現に課題として直面しているのは高齢世帯ではあるが、これからの若い世代も必ず直面する課題であるので、いかに自分たちの生活を守るシステムを役場を頼りにしながらも、地域としてやれる地域にしていけないかという共有認識として持っていなければいけないと思う。次の世代・子供たちにつながっていく新しいやり方を考えていかなければならない。

【意見・質問等】

- 自分が住んでいる地区の70年前と現在を比較すると、人口が6割程度に減った。昔は地区においても子供会や若妻会、老人会など様々な組織があったがそれも減り、地域の行事や伝統文化をどう維持していくかが課題となっている。生活面においても、コンビニすらなくなってしまうのではないかと不安。人口減少を食い止めるのは難しいことだが、仮に人口が減った場合でも生活に豊かさを感じられるような町であってほしいと思っている、町にはその未来像を示していただきたい。
- 人口減少が進む中で、人手不足をAIなどのデジタル技術で補おうとする流れがあるが、それも難しいと思う。その中で自分は三つの攻め方があると思っている。一つ目は出会いの場を作ること。二つ目は県外や外国から人を呼び込むこと、三つ目は物や人のシェアリング。
- 地域おこし協力隊の存在は大きいと思っている。やりたいことをやらせるべき。ほかの市町村のマネではいけない。
- 谷地高に対する支援を積極的に行ってほしい。色々な仕掛けを行い、子供たちが地元を愛せるような教育を行ってほしい。
- そもそも人口減少を止めるには一時的な給付金などではなく安定した収入を得られるようにすべき。
- 世帯数は変わらないが人口は減り、その内訳も高齢者ばかりで青年層が少ない。取り残される人がいないように地域コミュニティを維持していくことは大切。だが青年部が中心となって活動していた活動もコロナがあって再開していくのが難しい。おまつり等の地域行事は担い手がおらず、負担が大きくなっている。地域活動のやり方を考えていかなければならない。
- 町を出ていく若者の心情としては、「働く場がない」というより「働きたいと思える場所がない」のではないかと。他から見た町の魅力を磨いていくべき。
- 北谷地地区は消雪設備を整えてもらい、道路に雪が残ることも減った。だが昨年、屋根から降ろした雪を地面に置いていたら警察官に注意された。屋根から降ろした雪はどこに置けばよいのか。側溝も蓋をされて行き場がなく、雪が通学等の妨げになっている。一人暮らしの家庭も多く、北谷地地区における排雪問題は切実である。
- 若者の流出問題について。自分の後輩の例を挙げると、住所は河北町でも勤務先は近隣市町で、そこで出会いを見つけて結婚を機に町外に転出してしまった。なぜ出て行ってしまうのかについては究明が必要だし、新聞等で町のPRをもっとすべきだと思う。たとえ大きい市で仕事をしても、「住むのは河北町」「戻ってくるのは河北町」と思える町にしていってほしい。
- 県外に出て行った若者と話す機会があり、なぜ山形に戻らないのか尋ねてみたところ、「収入が低くなるのに伴い生活の質も低くなるから」「生活していく上での利便性が下がるから」とのことだった。これは河北町の努力だけでどうにかできる問題ではないが、他市町村や県と協力して頑張してほしい。

- 人口減少が進み、これから先、町内会単位でまつりの屋台を出すのは難しくなっていくと思う。もっと大きな地域で一台というような出し方にするなど工夫が必要。以前町外の方からまつりに出たいとの申し出があり、実際出たこともある。町外からもまつりに参加できるようにするなどよいと思う。
- いもこ列車は結構人気がある。せっかく良いものがあるのだから、立派に作り替えたり、中央公園を一周するようにしたり、今あるものを活かしてPR していったほしい。
- 先ほど町長は子育てと教育を頑張っているというお話をされていたが、自分はその前に人口を増やしていく必要があると思う。そのために花ノ木工業団地などに企業誘致をしてはどうか。役場で花ノ木工業団地のPR をするなど。
- 谷地高はカヌーが有名。県外からも入学できるようになったようだが、やって来た高校生が安心して住める施設を作るべきではないか。遊佐町ではそうした施設を設けているようだ。
- 近年まつりの担い手が少なく青年会は苦勞している。ひなまつりでは受付やシャトルバスもなく寂しい感じがする。もっと町外の人を迎える体制をつくっていくべき。
- 自分は今年初めて区長になり総合交付金の存在を知ったが、本来町がやるべき行事を地区が行っているのにもかかわらず交付額が少なすぎる。これでは地区の負担が多く、行事をやらないほうが良いとまで思ってしまう。
- 役場に行ったとき、職員が皆マスクをしていた。マスクをしていなかった職員でさえ、自分が窓口に行くとわざわざマスクを着用して対応にあたる。今はもうマスクをしなくても良いはずなのにどういうことか。
- コロナや人口減少もあり、地区の活動は大きく減ってしまった。自分は向かいの家に住む高齢者の緊急時における要援護者となったが、地区で避難訓練などはなく、実際どう動けばよいのかわかっていない。避難訓練、炊き出しの訓練などは必要ではないか。
- テレビで「東京は令和、田舎は江戸時代」と語る山形出身の女性を見た。「若い女性がいない」と言うが、我々に染み付いた性別役割分担意識が無くならないと、若い女性は戻って来ないと思う。
- 子育て世代を大切にすべきだと思う。現在、親は仕事で忙しく、高齢者は家で暇を持て余しているような状況。公民館を活用して皆が集まり交流する場を作るのが良いと思う。
- 小学校の統合の件など、上の方が決めた話を町民はただ受け止めるだけになっているのは良くない。この「語る会」を含め、もっと色々な世代の人が自由に話せる場がほしい。
- 出て行った人が戻ってこれるようなもの。地区のおまつりの際は出て行った人が戻ってきた。そうしたまつりを含め、年に何回かでも戻ってくるきっかけになるようなものがあれば、それが豊かさだと思う。

【町側の回答等】

【人口減少について】

○現在、町内に在住する外国人は300人を超えている。前は中国・韓国人が多かったが、今はベトナム・インドネシアなど東南アジア人が多い。以前は河北町以北の市町村から転入してくる人も多かったが、今はそれも少なく、転入者数の減少、戻ってくる人の減少を外国人がカバーしているような状況である。

【谷地高支援について】

○谷地高生への支援に関しては、谷地高を支援する会というものがある。現在 50 を超える個人、30 を超える団体から支援いただいている状況。町からは通学補助や楽弁などの支援を行っているが、支援する会では谷地高生がやりたいこと、チャレンジしたいことを支援するのが主旨となっている。

【地域活動について】

○仕事や社会貢献活動、地域行事なども含め、若い人がやりたいことをやれる環境をいかにつくっていけるかが大事なのだと考えている。

【排雪問題について】

○雪がある中、交通の確保というのは生活に直結していると考えている。雪置き場を町でどう確保していくのか、地域の皆様と協力しながら行っていくのが大切だと思っている。

【若者の流出について】

○子育てや教育の面では河北町は恵まれているほうだと認識している。だが高校生の通学や駅までの利便性に関しては良くない。特に土日や夜間に関してはバスも少なく、子供を通学させやすい東根市や寒河江市が選ばれやすくなっている状況である。今後は JR やバス会社と協力して、駅への公共交通を何とかしていきたいと考えている。もちろん谷地だけではなく町全体として。

【まつりのあり方について】

○まつりの担い手不足については、地区だけで解決できる問題ではない。どうしたら維持していけるのか、実行委員会も含めて検討していく。

○これまでは地区外に出た方も囃子屋台を手伝うという形でなんとか人数を確保してきたが、それでも維持が難しくなっているという話も聞いている。このような中でどうまつりを維持していくか、ひなまつりも含めて観光協会で検討しているところ。ご提案いただいたように、複数の地区が合同で囃子屋台を出すというのも選択肢の一つだと考えている。なんとか工夫をしていきたいが簡単ではないと感じている。

【県外からの入学生支援について】

○谷地高の県外からの入学生に関しては 8 名の募集枠でスタートする。いずれにしても受け入れ態勢というのは大事だと思っている。温かく歓迎するだけでなく、実際に住む場所も含めて、谷地高と協力しながら検討していく。遊佐町は既存の建物を使って住居施設を整備したようなので、そうした事例も研究していく。町でも準備していくが、地域の皆さんからのご協力をいただきたい。

【地域振興総合交付金・マスク着用について】

○庁内におけるマスク着用については職員個人の判断に委ねている。マスクを着用する職員は、おそらく相手が不安にならないかを考慮して着用していると思う。もしマスクを外して話してほしいなら、そのように言っていていただいても問題ない。

○地域振興総合交付金については、あくまで地域での活動に対して町が補助するという形であるため、特段町が地区に地域活動を強制するものではないと認識している。交付するための申請手続きはどうしても必要になってくるが、区長さんの負担を考慮して、もう少し楽に申請できるよう努めていきたい。

【若い女性の流出について】

○自分もとある人に「結婚しないと決めた人や、町外に出て行って戻ってきた人が肩身の狭い思いをせず、温かく迎えられる町であってほしい」と言われた。男性陣は総会に出席して女性陣は料理の準備といった形は、これからの若い人には抵抗があると思う。こうしたことは行政だけでなく地域でも考えていかなければならない問題だと考えている。

【意見・質問等】

- アンケートのお願いがあったが、参加者用には椅子しかなくテーブルの用意がない。いくら参加人数が少ないとはいえ、会場の後ろの回収用の机で書けというのは不親切に感じた。
- 今日の新聞にも将来的な人口についての話題が載っており、記事を読ませてもらった。現実的な人口の推移をもとにした話というのはわかるが、政治家というのは夢を持たせる立場の方だとも思うので、これから人口が1万人を切るかもしれないというネガティブな話よりも明るい未来の話をしてほしいと思った。
- 役場職員でも河北町から離れて近隣の東根、天童、山形、寒河江に住んでいる人がおり、戻ってくる職員もいればそのまま町外に住み続ける職員もいると思う。町民からの意見をこういう場で聞くのもいいとは思いますが、役場職員ですら町外に住んでいるので、どうして町外に住むことになったのかというのを聞くというのも一つの手ではないかと思う。
- 町で一番有名なのは動物園だと思っているが、今回の動物園のリノベーションとはどういうものなのか聞きたい。
- 農業振興の担い手の育成というのが今日の配布資料に載っているが、溝延で水が上がった時に、毎年サクランボが枯れていくという状況となった。専業農家への手当というのは結構あるようだが、兼業農家への手当があまりなくて、どうしても農家を辞めようかなという方がいらっしゃる。こうしたことから農地が荒れたり、放棄地ということにもなってくるので、山形県のサクランボを残すという意味合いからも検討してほしい。
- 例えば、サクランボの樹木が毎年1,2本は枯れていく。その枯れた分の苗木を買う際に専業農家であれば補助金がいくらか出るが、兼業農家へは出ないし、苗木を植えても売れるようになるには10年くらいかかるため農家を辞めてしまう。サクランボのハウス関係についてもそうだが、少しでも支援があれば兼業農家にとってもいいかと思う。
- 配布資料の初めの項目に示されている「移住定住の推進」や「子育て支援の充実」について、町から示されている事業内容についてはわかるし、いいことだと感じるが、よその市町村との対比がどうなっているのかが我々はわからない。ほかの自治体の取り組みの状況について比較できる数値などを示してもらえれば、我々としてもこうした取り組みを改善できないかとかという意見が出るのではないかと思う。
- 人口減は社会減によるものということだが、町へ転入した人がなぜ町を選んできたのかという調査を行っているのか？理由としては転勤とか親元に近いからという人が多いのではないかと思うが、アパートも増えて、土地や空き家も増えてきていたり、選ばれる街になるための定住促進住宅のリノベーションにも取り組んでいるのに帰ってこない理由は何なのか調べてみることも必要では。来てもらった理由がわかるなら長所としてそれをアピールするという手立てもあるのではないかと思う。
- これだけいろいろ町でされているが、町として対外的にどのようにアピールされているのかというのも気になる。自分もいろいろなことやってみて感じているが、一生懸命やっても相手に伝えることができなければ何にもならないということに突き当たっている。ほかの

自治体と対比をしたうえでうちの町は集まってもらえるだけのこうした施策をしているという PR をすればより実効性があるのではないのかと思う。

- 人口減少について先ほど町長からも話があったが、町に働く場所として企業を誘致することが必要で、町から企業が撤退するような状況では町の人口増加にはつながっていかないと感じている。私自身も東京に就職して、町に戻ってきた U ターン組で、U ターンするときに山形というのは働き口がないと感じた。町についてもやはり会社も少ないので働き口や魅力ある企業を誘致してはどうかと思う。
- 祭りについては子供が少なくなっている中で、一つの地域では出せなくなっているという状況。ほかの町内会と共同で参加させていただいて、子供さんたちに出てもらって楽しんでもらうということもあったので、これからは昔のように中部・南部・北部とそれぞれの地域で 7, 8 台も出すというのは難しい。谷地の祭りということなので町としてコントロールするのが難しいかもしれないが、台数を制限するとか町内会合同で出せるようにするとかして持続的な祭りとして魅力ある形を検討されてはどうかと思う。
- 自分自身は高校 3 年生で今年が受験期ということで、県外の大学を受験しようと考えている。将来的に大学を卒業して就職を考えたときに、河北町に戻ってきたいかというところあまりそうは思えない。祭りや冷たい肉そばが大好きでこの町自体はとても好きだが、住むとなると娯楽やショッピングモール、商業施設が少ないので他の町に住んだほうがいいのかと思ってしまう。河北町はほかの市の中心部に同じくらいの距離で行けるのでアクセス自体ができればいいと思う。難しい話かもしれないが、公共交通機関の整備をしてほしいと思う。
- 3 月まで保育施設で勤務させてもらっており、これまで町長はじめ 3 役、関係者の方からさまざまな支援をいただいていた。町内全域の子どもさんや保護者と触れ合う中で河北町がいいところだという実感を得てきた。河北町の未来を担う子供たちであり、園の行事では大きなコミュニティがありパワーを感じるし、町は明るく元気になっていけると感じている。一方で、少子化が避けていけない課題であると感じており、私が勤務している間でも毎年 10 人くらいずつ減となっている。
- 一つの出来事で大きく変わった事例として紹介すると、自分自身は袖屋敷に住んでいるが、谷地保育所が廃止になって、宅地造成をした結果 10 数件の家が建った。そこの方々が子育て世帯で 1~3 名の子供さんと生活しており、地区内で宅地造成があったという意味ではほかにはない珍しい町内会だと思う。町内会としては劇的な変化があり、もともと子供が少なく、通学班も細々としたものだったが、いまでは数班作らなくてはいけなくなっている。子育ての保護者による青年会や女性の会合をもとにしてコロナ禍明けのビアガーデンといった行事も始めつつあり、これまでの袖屋敷では考えられない状況。ほかにも町内のどこかにそういった場所があれば、町全体への活気が広まり、新庁舎を使ったイベントに若い子連れの家族が集ってきて楽しめるというのは町としてアピールできるようになると感じている。
- 配布資料にある「安全・安心なまちづくり」について、今はどういう災害が起きるかわからない中で、自助・共助が大切になってくるのかと思っている。このような中で地区のコミュニティとしては、コロナ禍で一堂に会しての交流会というのが全くなかった。少しずつコロナ前の事業に戻して、レクレーション大会後のビアガーデンをする計画についても、地区民からはこれまでやっていなかったのだからする必要はないのではという意見も出てきたが、結果的には参加チーム数を減らして実施することができた。やはり顔が見えないとコミュニ

ケーションが取れないので、地域の親睦を深めるためにも、担当の組を決めてそこからチームを出してもらうようにして、少しでも顔の見える地域づくりに取り組んでいる。

●区対抗スポーツ大会はとにかく当番を決めて大会にでてもらうようにした。今は大会の参加種目が減って3種目になっているが、回数的にはそれくらいがちょうどいいかとは感じている。

●地区内で後継者が東根や天童、県外へ移り住んでいる状況もあるので、あと20～30年でもっと減るのではないかと考えている。小学校の統合整備についての話が記載されているが、これと同じように各地区も合併しないと戸数が少なくなってダメになる地区が出てくるのではないと思う。

●今年は語る会を3回に分けて実施するしたが、北谷地や西里、溝延、南部、中部といった各地区で分けて実施したほうが地区ごとの中身の濃い課題や問題点をらせるのではないかと考える。地区の区長、公民館長、実行組合長などの役員に集まってもらって地区の問題点を話してもらい、町全体の問題点へと広げていったほうが話を進めやすいように思う。

【町側の回答等】

【町長と語る会の開催形態について】

○会場の机の配置を改善したほうがいいという意見や執行部と参加者の対面よりも話しやすい会場づくりがあるんじゃないかという意見もあった。これまでの開催形態としては、初年度はテーマを設定せず地区ごと開催、2年目はテーマを設定して地区ごとに開催し、今回はテーマを設定して様々な地区の方が参加できる場を複数回設けるという形で開催した。来年度は同じテーマでするにしても、こんな意見が出たというのをフィードバックして地域で継続的にさらに深掘りするという形もあり得ると思う。ほかには、女性なり若者が参加できるような会にしていけないといけないという意見もいただいた。

【人口減少について】

○新聞の首長座談会では人口減少の状況を語っており、夢のない話をしていると受け止められたかもしれないが、共有したかったのは危機感であった。小学校の在り方検討を進めている中で、そこまで生まれる数が少なくなっているのかとかそこまでの状況とは思ってなかったという声もあったりするので、事実を事実として伝えたいと、それに基づいてこれからの展望を語る必要があると思っている。そうは言っても、希望が持てないといけないという意見もあるかと思うので、みんなの希望をどこに設定していくのかということと一緒に考えていきたい。

○河北町へどうして戻ってこないのか、逆に河北町へ来た人はどうしてこの町へ来てくれたのか把握しているのかという意見もあったが、確かにその通りで、肌感覚でその要因を感じているもののデータや裏付けによって町のビジョンや政策を決めていくのは大事だと思う。わかったつもりでもデータを見ることでもっとわかることもあれば、思っていたのとは逆のデータによる気づきもあると思うので予算や計画づくりにも心がけていかなくてはならない。予算については要望などによる優先順位をつけたり、計画づくりをするなら町民の意識の変化を把握するためのアンケートを実施して反映するなどが一般的だが、こう

した従来の手法以外にも若い役場職員が一町民に立ち返った状態で意見を出し合いながら進めるということも必要と思う。

○移住された方向けの補助金の受給者からアンケートを取っているのでここで参考までに紹介させてもらう。意見としては、町の公共交通機関の利便性の向上を望むというもの、役場へ何度か行ったが親切に対応してもらったというもの、プラごみの収集日が少ないというものがある。特に不便と感じているものへの意見として、駅までの利便性が悪いとか週末や金曜の遅い時間に河北町へ戻ってこれる手段を増やすことを検討してほしいというものもあった。補助金への評価としては若い世帯の移住促進にはいい制度だというもの、事実婚でも法律婚と同じように扱ってもらえて多様な夫婦・家族の在り方を認めてくれる町に住みたかったので移住できてよかったというものがある。そのほか税金の納付方法にコンビニ決済やクレジット決済ができるようになればいいというものもあった。河北町と河北町以外への移住を考えたかという問いには、考えたという人のほうが圧倒的に多い。移住を考えたきっかけとしては、前の住宅都合でという方や結婚を機にという方、親との同居のためという人が多い。河北町へ移住した理由は、公園が設置されていて良い、買い物が便利、通勤・通学がしやすい、子育て支援という理由が挙げられている。

○さきほど、アンケート内容の紹介があったのは移住定住促進事業費補助金という河北町独自のもので、町外から移住して住宅の新築や住宅を購入し住み始めた方へ補助金を交付するもの。基本的には70万円、転入された夫婦のいずれかが40歳未満であれば30万円加算され、最大100万円を交付するというものとなっている。アンケートについては令和5年度に補助金を交付した方へのアンケート結果をお伝えした。補足すると、移住されたきっかけとしてのその他の内容としては、河北町は雪が少ない、親族が町内に住んでいる、河北町の土地が安かったからというものがあつた。河北町以外への移住を検討したかという設問について、検討した移住先で多かったのは寒河江、天童、東根であつた。なお、町の人口異動全体でみると、県内の他市町村からの転入元で多かったのは上から寒河江市、東根市、山形市という順番で、転出先で多かったのは上から順に山形市、寒河江市、東根市という順番であつた。また、昨年度の県内の転入者数は271名、転出者数は304名で転出者数のほうが多くなっている。

○若い人にとって、住居は高い買い物で一生に一度の買い物でもある。求めやすい土地・住宅を考えると山形、天童では見つけられないため東根、寒河江が伸びてきている。また、建設費がだいぶ上がってきており、東根の中でも周辺部のほうに住宅が動いて行っているという話を聞いている。働き口と住居の手当てというのが大事だとは思いますが、その裏付けを取りながらより効果のある施策や制度を考えていきたい。

○中学までの子育て支援は充実させてきたが、高校となると山形や寒河江に通学する子が多くなるため、高校生の保護者や谷地高議会で出される意見としてはやはり通学に不便だというものがある。河北町は面積的には小さな町であるが、視点を変えると空港やほかの市の中心部を内包する大きな町だという見方もできる。そうした場所にどうやってつなぐか、ネット

ワークをどうすればコンパクトシティとして生き残れるのか、もっと積極的に町外から来てもらえるのかを考えるのが大事だと思う。

- 袖屋敷の新年会に呼ばれることがあるが、若い世代の方の出席が多いと感じる。もともと袖屋敷に住んでいる人たちと移ってきた方と一緒に事業を実施されていて、うまくいっていいなと感じる。転出した理由、転入してこない理由、転入してきた理由を役場職員含めて話を聞くべきという意見があったが、実際入ってきた方の意見をよく聞いて政策を組み立てていくべきと感じている。

【まつりについて】

- 祭りについて、ある町内会では屋台を出せるのが今回までだという声をこの語る会でも出されたことがある。祭りは地区ごとにお囃子が違っていたり、守ってきた伝統もあったりしてみんなのお祭りというよりはそれぞれが持ち場ごとにやっていることでトータルで盛り立てているものと認識している。ただ一つの方角で新しい形を作っていけるとも思わないし、そういうお祭りでもない。地域のやり方で進めているところがいいところだと思う。一方で、子供も担い手も減り、現実的に半分の地区が出せなくなっているという中で複数の地区で一緒にやれないとか、住んでいる人だけでなくいわばお祭りUターンのような人も含めてやっていったらどうかといった意見もあると思う。今後どうしていくかというのはどのが祭りの北部地区の実行委員会でも話が出て、各地区の考え方だけでなく関係者みんなで考えていかなくはいけないという点を確認した。

【兼業農家への支援について】

- 兼業農家への支援、特にサクランボの苗木に対する支援ということについて話が出たが、サクランボ苗木導入支援事業補助金というのは確かにある。現状ではサクランボ部会でまとめて購入、農協が取りまとめて苗木を一括購入ということになっているため、この部分について兼業農家に対しても支援できるよう農協と話し合いを進めていきたい。

- 国、県の補助というのは最終的には個人の農業経営への支援となるが、機械化するにしても共同購入という場合が多い。行政として支援するというのがどうしても個人への生活支援でなく、土地に着目した支援となっているためだと思う。兼業農家同士と一緒に申請するという工夫がないと制度に乗っかれないという面がどうしてもある。

【役場職員が町外に住む実態について】

- 職員がどうして町外に住むのかという質問があったが、男性・女性ともに配偶者の仕事の関係で町外に住むことになったという理由が多いように見受けられる。町のインフラや地域の環境といった要因ではないと思われる。

- 役場の募集要項にも採用後できるだけ町内に住むようにという要請をしていますが、最終的には住むところは自由であって、規制はできない。また、人口減の話をすると、結婚しない選択をした方や子育てに事情を抱えた方など人口増につながらない選択をした町民が

居心地の悪い町にはしてほしくないという声も聞く。河北町に住んでくれた方の考えとか、あるいは戻ってこない方の考え方とかをきちんと探るということは重要だとは思っているが、気概を押し付けるようなことなく、住みたいと思ってもらえる方法を考えていきたい。

【動物園のリノベーションについて】

- 基本設計したときに作成した模型を役場のロビーに置いているが、ようやく発注が終わったので年度内に整備する予定である。一番大きいのは剥製館に代わる建物をつくり、小動物をおいて雨の日でも触れ合えるようにするとか、飼育員の作業スペースを確保できるようにする。そのほか、今ある動物の檻は基本的にはいじらず、ベビーカーや車いすの方でも安心して来園できるよう段差をなくしたりスロープを設置するなどバリアフリーにも配慮した形にする。期待の大きい事業だと思うので今後は広報などでも発信していきたい。また、芸工大卒の地域おこし協力隊に着任してもらい、動物園のブランディングという観点からわくわくするような動物園をデザインするべく知恵を絞ってもらっている。